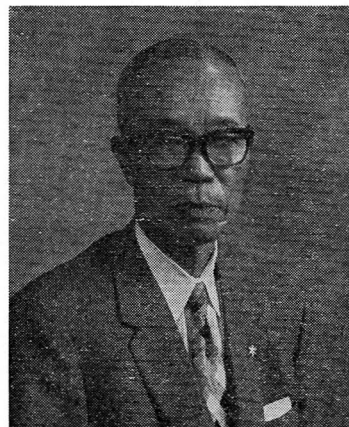


年頭のごあいさつ



取締役社長

五十嵐 浩



新年おめでとうございます。皆様さまにはお健かできびしい経済情勢にもめげず、将来の抱負と希望に満ちた初春をお迎え遊ばされたことと存じ、心からお慶びを申し上げます。

石油ショックに引続き、国際的な異常気象により食糧飼料穀物の減産、価格の高騰が、わが国の農業畜産に重大な影響を及ぼし、今や畜産の危機といわれておりますが、養鶏、養豚、酪農経営は苦しい状態に追込まれております。

わが国の輸入穀物の昭和48年1月から12月までの一年間を見ますと、大豆363万t、とうもろこし777万t、マイロ374万t、小麦538万tなどでありまして、国内大豆の主産地北海道で、昭和48年の豊作年でもわずかに3万2千tで輸入量の1%にも満たないのであります。

然るに日本人の生活に欠かせない味噌、醤油、豆腐、納豆などは、ほとんど輸入大豆に依存しているといっても過言ではありません。昔は水田の裏作は麦類畦には大豆を植えたものですが、今は全く姿が見られません。またかつては日本人の蛋白食糧は魚に大きく依存してきましたが、北洋漁業も南洋の鯨も年々漁獲を制限縮小せられ、沿岸漁業も振わず、さらには国際的に領毎200カイリの漁獲を認めないなどという声が強く、何としても畜産食品の増産を図る以外に道がなくなりました。そこで畑や水田裏作に飼料作物や牧草類を栽培し、山地に家畜を放牧したり草地を造成するなど、あらゆる方法で国内で飼料を産み出すことが緊急重要な方策となってきたのであります。

弊社は早くから牧草飼料作物の品種改良増殖普及と栽培技術と利用の開発に力を注ぎ、国際的に最も優れた良質多収の各種の種子を豊富に用意しておりますので、これを十分利用されて、国策として国内飼料の一大増産運動を展開していただきたいと念願する次第でございます。また一頭当りの乳肉生産を増大するには自給飼料に適量の濃厚飼料を併用することが絶対必要でありますので、良質の配合飼料の適量給与を強くお奨めいたします。弊社は日夜配合飼料の研究とその円滑な輸送に努力しておりますので、有効に使用されて収益を大きくされるようお願いいたします。

弊社は園芸部、緑化造園部を動員して、国民生活を豊かに美しくして生活を楽しむ事業にも真剣に取り組んでおります。

世の中はすべて経済が成立つように努力することはもちろん大切でございますが、花や草木や自然を愛し、情操の豊かな生き方を求めることが、非常に意義深い人生であると確信いたします。年頭に当り弊社の使命の重要性に思いをいたし、全社員一丸となって職業を通じて社会に奉仕する決意に徹することを誓い、年頭のご挨拶といたします。